

〈学習の導入〉

・鉛筆は一本だけ。教科書、ノートの準備をするように指示。

T 読んでみた人はありますか。 (挙手なし)

T 分けて読んでもらいます(読む場面と読む人の確認)。初めてですから、大きな声でゆっくり読んでください。□の中を読んで、下の意味も読んでください。

(四つに分けて、四人で音読。最後のSさんは読めず、小平先生が「一緒に読みましょう」と言って、読む。)

T 初めてなので、ちんぶんかんぶんの文章ですが、ゆっくり読めば大丈夫です。

(「漢文に親しむ」と板書)

T 漢文は、何ていう字で書かれているのですか。

C ……漢字。

T だから漢字で書かれている文章のことです。みなさんはいつから漢字を習っていますか。

C 一年生。

T みなさんが今使っている言葉は何語？

C 日本語。

T 漢字はこの言葉ですか。 C 中国。

T 最初、日本には文字がなかったんだそうです。お話しする言葉はあったけれど、書く字がなかった。初めて来た外国語は漢字なんです。それで、外国語だったら日本人読めませんよね。でも日本人は漢字を読めるように工夫したので、今でも漢文が伝わっている、という話です。

T 日本語は、漢字だけですか。

C ひらがな。かたかな。

T 四年生の頃には？ C ローマ字。

T 日本語はいろいろな言葉が入っているのです。一番始めに来た外国語の漢字。それがひらがなを生み、かたかなを生んだんです。

T 「親しむ」とは？ ……親しい友達ってどういうこと？

C 仲良し。

T 一緒にいるとか、そういう意味ですね。

T 「本に親しむ。」は？

C 本を楽しむ…。

T 親しむっていうことは、漢文を読んで楽しませよう、っていうことだと思います。

T 四つ読んでもらいましたが、一番最初は漢文についての説明でした。そのときに出てきたのはどんな言葉でしたか。

C 百聞は一見にしかず。



T いろいろ説明されても、一回見れば分かるよ、ということでした。二番目は何という人の言葉が紹介されていますか。下の方に書いてあります。 C . . .

T 論語は？

C 孔子。

T 次は？

C 諸葛亮。

T 聞いたことある？ . . . 三国志に出ている人が言った言葉なんです。 C

T 最後は？

C 孟浩然。

T この方々はものすごく古い時代の人なんです。（それぞれの人物の時代を説明する。）

T 今日、孔子さんと諸葛亮のところを書いて勉強したいと思います。 C

T 書いた人はしまってください。あとは黒板で勉強します。

T 読んでもらいたいと思います。（〇）さん指名。読めない。）

T . . . では一緒に読みましょう。（. . . と教師が読む。）

T 今の言い方とちがうところ、古い言い方もありますね。

T 分からない言葉、ありますか。どうということ？っていうのありますか。 C

T 「以て」のところ。

T 「以て」どこにもあるね。なくてもよさそうだけど、接続詞です。「そして」、とか、「だから」という意味です。あとはどう？

T 最初に年代の近いこちら（三つ目）からやります。

T 漢文と合わせて、読み方を確かめましょう。

② ① ⑥ ③ ⑤ ④

非学 無以 広才 . . . と板書

日本語なら上から読むでしょう。でも日本語に直すときは「学ぶにあらざれば. . .」。そういう読み方を考えたのが日本人たち。外国語ですからね。それを翻訳するためにいろいろ考えたのです。

同様に

② ① ⑥ ③ ⑤ ④

非志 無以 成学 . . . 板書

T すごいですね。高校、中学校かな、習いますよ。読み方は覚えなくてもいいです。けれど、読み方として戻って読んだり工夫しているということを分かっておいてください。

T 諸葛亮は、ということが大事って言っているのかな。はじめの一行では？ C . . .

T 「学びなさい」ということではないですか。こちらは？（後ろの方を） C

T 志す。

T 志すって何？ C 目標とか。

T そう、目標とか目的だね。



*書き方の指示

二番目と三番目の漢文を書き、その読み方も書くように。

*板書する。

T 次はこちら(一つ目)。ここでも読み方を考えてみましょう。

聞一以知十

T 漢文では、読まない字もあります。これも上からではなく、工夫した読み方です。

T 最後はこれ(二つ目の「論語」)。

子曰温故而知新可以為師矣

T 「知る」とはどういうことを表している？

C 考える。

T ただ「知る」とは違って、勉強したら考えてみなさいよ、という意味だと思います。

T 読んでみましょう。漢文を目で読んでから声に出してみましょう。

T (漢文を残し、読み方の文を消す。)

C (漢文についた番号を手掛かりに読む。)

T 漢文だけを読んでみましょうか。難しいと思っているかもしれないけれど声に出して読んでみてください。

T 来週は詩について勉強しましょう。

みなさんは、普段から漢文を使っているんですよ。

*「一石二鳥」や「花鳥風月」などが 話題に上がる。



*児童とともに順番を確かめて番号を付ける。

*児童は読み方の察しが付いてきて自ら声に出し始める。

